

安全性についての認識については、多くの対象者が、日赤医療センターが他の医療機関からも搬送先になっているという事実を考慮し、何かあった場合も、最初から日赤医療センターを受診していた方が安全と考え、受診先を選択していた。

#### 【経産婦】

- ・生理痛が重く、子宮内膜症を患った時期があったため、自分に何かあった場合に対する不安があった。何かあった場合は、いずれにせよ日赤医療センターに搬送されるのであれば、最初から受診していた方が安心だと考えた。
- ・自分よりも子どもが無事に生まれてくるかどうかが気になっていた。日赤医療センターは新生児の医療体制が整っており、もし日赤医療センターで問題が生じるのであれば、どこに行っても同じ結果になるだろうと納得することが出来た。
- ・40歳以上の高齢出産であったため、万一の時のバックアップ体制が整っていることが出産場所選択の基準であった。

#### 【初産婦】

- ・万一の場合も、日赤医療センターのような大病院であれば安心だと考えた。
- ・病院で助産師として働いていたが、自分の出産はどのようなようになるのかと心配だった。所属が分娩室だったので、外来の知識がなかった。日赤医療センターはフリースタイルの出産に取り組んでおり、また、安全性の面からも間違いないだろうと考えた。

モデル事業に参加した動機としては、「同じ助産師の方に継続して担当してもらえらる」「自宅で健診を受けられるのが魅力」「出産費用が安い」等があげられていた。日赤医療センターでケアを受けたいと希望しながら、日赤医療センターが自宅から遠いことや、健診に時間がかかること等を、訪問健診によって解消できることが魅力と感じている。

#### 【経産婦】

##### ○訪問健診

- ・上の子の面倒を見る必要があるので、自宅で健診を受けられるのは魅力的だった。
- ・日赤医療センターに通院しなければならないと考えていたので、「ラッキー」だと思った。

- ・訪問健診を受けられるのが最大のメリットであり、病院に行く回数が減る方が楽だと考えた。
- ・訪問健診に魅力を感じ、説明を受けてすぐに「絶対お願いしたい」と思った。上の子がいると幼稚園のお迎えの時間等に対応しなければならず、病院の待ち時間が苦痛である。
- ・自宅が日赤医療センターから遠いことが「ネック」だったこと、また、上の子がいることから、モデル事業で訪問健診が受けられると聞いて、すぐ参加したいと考えた。
- ・病院での健診は半日あるいは1日かかりという状況なので、病院に来なくても健診が受けられることは、仕事をもつ妊産婦にとってありがたいと思った。
- ・遠くの病院まで通う必要がないこと、助産師と密な相談ができることがよいと思った。
- ・（義母が経営する幼稚園の経理の）仕事をしているので、モデル事業はありがたい。

#### 【初産婦】

##### ○同じ助産師

- ・正直なところ、モデル事業であれば、よく見てもらえるのではないかと思った。同じ助産師の方に継続して担当してもらえる点がよかった。

##### ○出産、入院費用

- ・出産費用が安いと聞いたため。
- ・入院期間が短く、また、入院費用が安いのがよいと考えた。

その一方、モデル事業に対する不安については、費用や個人情報の問題等あげられていたが、特に入院期間に対する不安があげられていた。当初モデル事業で想定していた1～2日という入院期間には、不安を覚えるという意見もあった。初産婦の場合には、初めてで不安なので長く入院したいという希望がある一方、経産婦の場合には、「入院中しか休めないなので、通常通り（長く）入院したい」という声もあった。

#### 【経産婦】

- ・もし初めての出産であればエコーが見たいので、参加しなかったかもしれない。

- ・研修医が担当するものでないかどうか気にかかった。
- ・費用がどの程度になるか心配であった。個別に訪問健診を受ける場合、その分費用がある程度高くなることは受け入れられるものであったが、一定の金額以上は支払いが難しい。
- ・入院期間が1～2日というのは、あまり好ましくなかった。入院中しか休めないので、通常どおり入院したいと思った。
- ・個人情報保護が徹底されるのであれば参加してもよいと考えた。
- ・担当助産師を信頼していたので、訪問健診については、特に不安はなかった。
- ・1人目の時と同じ助産師に担当してほしかったので、誰が担当することになるかわからないと言われた時は、参加するかどうか迷った。

#### 【初産婦】

- ・実母は、モデル事業の入院日数が短いことに不安を覚えていた。入院日数については変更可能ということだったので、参加することにした。
- ・何か問題があれば、途中で参加をやめることも出来るとのことなので、やれるだけやってみようと考えた。

## (2) 訪問ケアの利点／課題

### ①モデルⅠ

多くの対象者から、「リラックスできる」「時間をかけて見てもらえる」「マッサージを受けられたのが良かった」「精神的に落ち着ける」等があげられている。

自分の生活空間で、継続的な関係があり、信頼できる助産師から、時間をかけたケアを受けることにより、リラックスすることができ、また自分の不安や悩みの表出もしやすくなっている。

助産師から、アロマセラピーやホメオパシーによるケアを受け、自分の状態にあったケアを受けられているという満足度も高い。助産師から医師と異なる情報が得られ、精神的な安定が得られたり、セルフケアにつながっている側面も見られた。

#### 【初産婦】

##### ○リラックス

- ・病院での健診は緊張してしまうのと比べて、訪問健診では、リラックスしてマッサージを受けたり、悩みや問題点を助産師に相談したりすることが出来た。
- ・訪問健診では、おしゃべりしながら過ごすなどリラックスしているので、病院での健診の時より、血圧が低かった。リラックスできるかどうかによって、体調自体が変わってくると思う。
- ・病院での健診と異なり、エコーは見られないが、心音をきいたり、マッサージを受けたりして、リラックスすることが出来た。

##### ○医療とは異なるケア

- ・訪問健診では、細かいことをいろいろ教えてもらったのがよかった。教えてもらわなければ、自分では気づかないことも多かった。
- ・妊娠後期に「むくみ」の症状が現れたが、B助産師がアロマセラピーやホメオパシーの技術をたくさん持っていたことに、非常に助けられた。ただ「受け身」の状態にいるのではなく、アロマセラピーやホメオパシーなど何かすることがあるのはよかった。何かトラブルを抱えたまま出産に臨むことは不安感につながるもので、出産前に「むくみ」の症状を解消出来てよかった。
- ・助産師と話すと医師とは異なる角度の情報が得られて面白かった。また、精神的にも落ち着いた。

- ・自宅で行ったのは、尿検査、腹囲測定、マッサージである。貧血があったので、食生活の指導もしてもらった。時間は1時間弱だった。

#### ○移動の負担の軽減

- ・妊娠中は移動が大変なので、自宅まで来てもらって非常に助かった。
- ・妊娠後期は、切迫早産のため、自宅で安静にしていなければならなかった。そのため、訪問健診を受けることが出来て、非常に助かった。

#### ○待ち時間の減少

- ・自宅では待ち時間がないことがよい。
- ・自宅での健診は、病院のような待ち時間がなく、気持ちが良かった。

#### ○ケアにかける時間

- ・病院での健診と比べて、時間をかけてケアをしてもらうことが出来る。（病院では、長時間話をする事は出来ず、ポイントをしばった質問をすることしかできない。）
- ・訪問健診では、時間がたっぷりあるので、医師に尋ねるまでもないような生活面の細かい疑問について、担当助産師に質問することが出来た。
- ・ゆっくり話しができてよい（周囲のこと等を何も考えず、よもやま話ができる）。

#### ○助産師とのかかわり

- ・妊娠中の時点で、どの助産師が出産に立ち会ってくれるのか分かっていたのは心強かった。

さらに、本人だけではなく、配偶者も助産師に会う機会があり、信頼を深めていく機会もあった。また、上の子どもが訪問健診に同席してなついているという声もあった。

- ・初回の訪問健診には、夫も同席した。A助産師が信頼できる方でよかったと言っていた。
- ・上の子が訪問健診に同席した。C助産師とは普段からつき合いがあるため、上の子もなついている。

一方、通院健診では、「待ち時間はそれほど気にならなかった」ということだが、遠方から通院している対象者は、通院時間等が気になっていたようである。節目の時期に「日赤医療センターで見てもらえたのは安心」という意見があり、病院で健診を受けることが安心につながっていることが伺える。また医療処置を行いたくない等の強い希望を持っている対象者は、医師に要望を伝えることができたなどという声もあった。

### 【経産婦】

#### ○時間

- ・待ち時間の長さはあまり気にならなかった。なお、大学病院では、1時間待ちは当たり前という状況であった。
- ・医師の診察は、それほど待たずに受診することができた。しかし、医師の診察の後、助産師の診察を受けるまでの間に1時間くらいの待ち時間があった。医師よりも助産師の方が話しやすく、1人あたりに時間がかかると思われるため、仕方がないとは思いますが、混んでいる時は許容範囲を超える。

#### ○健診の対応

- ・健診は、ゆっくり丁寧に対応してもらうことが出来た。

#### ○助産師の同行

- ・担当助産師がついていてくれるのは心強かった。また、初回はB助産師も健診に同行した。
- ・通院定期健診は、訪問健診と交互に受診した。C助産師も毎回同席した。

#### ○医師の対応

- ・担当医はS産科部長。どんな人なのか不安で、インターネットで調べたところ、評判が良かったので、初対面の前から好印象を持っていた。実際に会ってみると、思ったとおりの明るくて気さくな人で、話も十分に聞いてもらえた。

### 【初産婦】

#### ○時間

- ・待ち時間は30分から1時間程度あったが、それほど気にならなかった。
- ・一番に病院に到着すれば30分待ちで済むことが分かり、最後の方は朝早く病院に行くようにした。

- ・1度だけ2～3時間ほど待たされたことがあった。通常は20～30分程度の待ち時間ですんでいた。
- ・待ち時間は、診療時間を含めて2時間程度であったが、以前通っていた病院では4時間から6時間かかっていたので、まだ許容出来た。

#### ○予約

- ・担当医師は人気があるため、予約がとりづらかった。いったん予約を入れた後、時間変更をすると、別の医師になってしまう。

#### ○情報連絡

- ・A助産師と日赤医療センターの連絡が、二度手間になることが多く、スムーズでなかった。当事者が3者（対象者、A助産師、日赤医療センター）になるため、自分が同じことをA助産師と日赤医療センターの両方に確認しなければならなかったり、A助産師が健診の結果を何度も記入しなければならなかったりすることがあった。

#### ○病院の空間

- ・設備は、病院特有の殺風景な様子で、落ち着かなかった。インテリア、照明などもう少しリラックスできるようなものであるとよい。

#### ○医師、助産師の対応

- ・医師や助産師の対応について、特に困ったことはなかった。
- ・医師は忙しそうで、ゆっくり話をすることは出来なかったので、質問したいことを予め控えておくようにしていた。
- ・医師には、医療処置のこと等、自分の要望をなるべく伝えた。子宮筋腫からの出血は心配だったが、特に母乳で育てたいので、よほどのことがない限り、輸血はしたくないということは伝えて、医師からも「わかりました」と言ってもらえた。
- ・ほとんどの検査は前の病院で済んでいたが、診察の時はやはり緊張した。
- ・妊娠の経過等については、日赤医療センターの担当助産師が丁寧に説明してくれたので、十分満足している。

#### ○頻度、意義

- ・通院定期健診で、大事な区切りに日赤医療センターで見てもらえたのは良かった。

・通院定期健診は月1回。ただし、7か月以降は、切迫早産になったこともあり、月2回程度の健診を受けた。

・通院定期健診で、大事な区切りに日赤医療センターで見てもらえたのは良かった。

#### ○その他

・エコーは、胎児が小さいうちは写真をもらってうれしかったが、大きくなってからはあまり画像がはっきりせず、よくわからなかった。

・事務職員の対応は、特に問題はなかった。

## ②モデルII

多くの対象者から、「マッサージを受けられてよかった」というほか、「ぬいぐるみを使った出産のシミュレーション」や、「お腹をさわりながら、胎児の頭や足のある場所を教えてもらった」といった、病院では十分にもたらされない情報を評価する声があった。

そのほかには、「決まった助産師にきてもらうことでゆっくり話ができる」「リラックスして受診することができる」「自分だけの時間・空間を持つことで、リラックスすることができる」「細かいことを質問することができた」等の意見が多い。

また、経産婦では、子どもを病院に連れて行く必要がないということが大きなメリットになっていることがあげられた。また、訪問健診の時には、担当助産師に子どもがなついて、遊び相手になってもらったり、心音を聞いたり、お腹を触ったりしたということも評価する声もあった。

自宅では、配偶者や実母も一緒に話を聞いて、疑問を解消したりする機会があり、家族で助産師とかかわりながら、不安を解消し、出産に向けての準備が整っていく様子が見られた。

その一方、「訪問健診ではエコーが見られなかったのが残念」という声もあった。実際、モデル事業の対象者の選定を行う場合に、「エコーを見たいから」という理由で、対象者になるのを辞退した妊婦もいた。

#### 【経産婦】

#### ○ゆっくり話せる

・担当助産師には、細かいことでも相談しやすく、ゆっくり話すことが出来た。

・妊娠中のトラブル、上の子の話など非常に些細なことまで質問することが出来た。

- ・ ロンドンで受けたケアの内容と同じだったので、何の不安もなく楽しく話が出来た。
- ・ (職場健診) 病院に比べて、職場健診では、自分だけの時間・空間をもつことで、リラックスすることができた。
- ・ 担当助産師には、医師に聞くまでのことではない、細かいことを質問することができた。
- ・ (自宅健診) 畳のあるスペースで、身体のゆがみなど細かい点をみてくれた。職場健診よりもさらにリラックスすることができた。
- ・ ゆっくり話しがしやすくよかった。一度整体をしてもらったことがあった。
- ・ 訪問健診は1回あたり1時間以上かかり、担当助産師とゆっくり話しをすることが出来た。
- ・ 病院での健診は、時間が遅れがちのため、次の人の順番が気になり、あまり細かい話ができない。その点、訪問健診では、妊娠中のトラブル、上の子の話など非常に些細なことまで質問することが出来た。
- ・ 担当助産師には質問がしやすく、不安なことは全て質問することが出来た。
- ・ 担当助産師が毎回同じであるのは心強い。安心して任せることができる。

#### ○病院にはない独自のケア

- ・ マッサージやぬいぐるみを使った出産のシミュレーションなど、病院では出来ないことをしてもらった。1人母親学級のようなもの。毎回、決まった助産師の方に来てもらえると、ゆっくり話が出来るので有難い。
- ・ 病院での健診と比べ、モニターが見られなかったのは寂しかったが、担当助産師がお腹を触りながら、胎児の頭や足のある場所を教えてくれたのは、病院では出来ない経験であった。
- ・ 担当助産師がお腹を触り、胎児の背中や足のある場所について、1人目の時より詳しく教えてもらった。

#### ○セルフケア

- ・ 上の子がいるとその世話にかかりきりで、自分の身体のケアは後回しになってしまう。身体の状態について、担当助産師に丁寧に教えてもらったのはよかった。

### ○助産師とのかかわり

- ・一人目の出産が大変だったので、「痛み」に対する不安があり、鬱々としていた。1人目を出産すると、（あまりにも大変なので）2人目の出産が嫌になってしまう。出産前の悩みは、担当助産師に相談することで完全に解消される訳ではないが、だんだん担当助産師に対する信頼感が生まれ、安心感につながった。
- ・静脈瘤が出来た時、担当助産師が真剣に考えてくれたのはありがたかった。足のマッサージを受けたが、病院では椅子に座っているので、マッサージは出来なかったかもしれない。果たして無事に出産をクリアできるのかどうか不安でいつも担当助産師に元気づけてもらった。

### ○移動の負担の軽減

- ・通院に片道2時間以上かかるため、訪問健診により通院負担が減った。
- ・上の子を連れて病院に行かなくて済んだのはとても楽だった。自宅と病院の往復は身体的な負担が大きいので、移動時間がないのは楽だった。

### ○その他

- ・病院での健診と異なり、訪問健診では、健診のついでに胃薬や便秘薬を処方してもらえない。初期には、それを予め見込んで日赤医療センターで処方してもらっていなかった。胃薬や便秘薬のためにわざわざ病院に行くと他の病気に感染する恐れがあり、また、上の子の世話も大変なので、簡単な薬については担当助産師が処方してくれるとよい。
- ・モニターを見られないことについては、1人目の時に既に見ていること、また、妊娠後期になると見てもよく分からないことから、特に問題は感じなかった。モニターは費用がかかるので、むしろ病院でも「いらない」と思う。妊娠の経過が順調ということがわかるのであれば、病院でもモニターは除いて欲しかった。

### 【初産婦】

#### ○ゆっくり話を聞いてもらえる

- ・訪問健診は1回あたり2時間程度かかり、そのうち1時間くらい担当助産師に話を聞いてもらうことができた。

#### ○リラックス

- ・マッサージを受けられたのがよかった。

・自宅にいと、自分の周りの環境が普段と変わらないので、落ち着いて受診することが出来た。

・病院では、次の順番を待っている人に遠慮してしまうので、質問等がしづらい。

#### ○助産師とのかかわり

・訪問健診ほか、担当助産師の申し出により、メールでのやり取りを行い、アドバイスをもらったのはありがたかった。

・助産師を自宅に迎えることについて、抵抗はなかった。むしろ、子どもを育てる環境を助産師に見てもらうことで、アドバイスがもらえらばよいと考えた。

#### ○移動の負担の軽減

・日赤医療センターまでの通院に、片道1時間半くらいかかるので、自宅に助産師に来てもらい、身体の負担が少なかった。

#### ○エコー

・妊娠中、エコーが見られなかったのは残念だった。

・エコーが見られなかったので、胎児の大きさが分からなかった。大きめといわれていたが、どのくらい大きいのか分からなかった。エコーを記念にしている人にとっては残念なのではないか。

対象者の家族にとっては、助産師が訪問することで、上の子どもとのかかわりが生まれたり、対象者の配偶者や母親が助産師から情報を得られたという意見があった。助産師が訪問で対象者にかかわることにより、対象者だけではなく、家族も含めた関係が出来上がっていることがわかる。対象者の中には、子どもを分娩に立ち合わせたケースもあるが、その場合にも、既に助産師との関係が出来上がっていることにより、安心していられた等の意見もあった。

#### 【経産婦】

#### ○上の子どもとのかかわり

・担当助産師に上の子の遊び相手になってもらった。そのため、出産の際、分娩室で会った時は既に友達のような対応で、慣れていたのがよかった。

・上の子も訪問健診を楽しみにしていた。

・上の子について、当初は区の「一時預かりサービス」を利用していたが、そのう

ち訪問健診に同席させるようになった。上の子は自分の家なので、担当助産師におもちゃを見せるなど、リラックスしていた。

- ・上の子が訪問健診に立ち会って、胎児の心臓の音を聞いたりすることによって、子どもが生まれてくることを楽しみにしてくれたことがよかった。
- ・上の子が1～2回同席し、心音を聞いた。
- ・子どもが1～2回同席したときは、心音を聞いたり、お腹を触ったりした。

#### ○夫や母

- ・夫や実母が同席し、一緒に話を聞いたり、心音を聞いたり出来たのがよかった。
- ・夫が健診に立ち会って、心音を聞いたこともあった。
- ・たまたま夫が居合わせた時、心音を聞いたことがあった。

#### 【初産婦】

- ・病院と異なり、訪問健診では、超音波検査を受けられないことに問題を感じた。途中で逆子になった時期があったので、病院では、毎回超音波検査を受けた。
- ・同席した実母も、聞きたいことが聞けたのがよかった。
- ・4回の訪問健診のうち、1回のみ夫が同席したが、夫から助産師に質問をする時間が出来てよかった。

一方、通院健診については、30分から1時間程度であり、「許容できる範囲」ということである。しかし、子どもを連れて行った場合には、それに耐えられないとのことである。

通院健診でも「医師にきちんと答えてもらった」とのことだが、それ以上に担当助産師から詳しく説明を受けており、「特に聞く必要がないくらいだった」という声が多い。

#### 【経産婦】

#### ○待ち時間

- ・8:00頃には日赤医療センター医療に到着していたため、朝一番で受診することができ、待ち時間はそれほどなかった。
- ・1人目の出産の時は、予約の仕組みがなかったが、今回は朝1番に予約を入れると30分くらいの待ち時間で済んだ。

- ・ 1人目の（出産の）時は待ち時間がとても長かったが、今回はあまり待たされなかった。
- ・ 最初は1時間程度の待ち時間があったが、担当助産師と関わるようになってからは、それほど長く待つことはなかった。
- ・ 待ち時間は30分程度はあり、時間通りに健診が始まることはない。しかし、マザーケア外来で助産師と話をしていたので、それ程苦痛ではなかった。
- ・ 待ち時間は、助産師と話をして過ごしたため、あまり長くなかった。
- ・ 待ち時間は40分から1時間程度あったが、許容できる範囲内であった。
- ・ 待ち時間が長い。自分1人であればよいが、上の子は耐えることが出来ない。
- ・ 最初は上の子を無理矢理連れていったが、子ども連れで電車に乗るのは大変であった。

#### ○担当医師との関係

- ・ 上の子は担当医になついていた。また、担当助産師に面倒を見てもらった。
- ・ 細かいことは担当助産師に相談し、医学的な問題はなかったが、担当医師にも十分に的確な対応をしてもらった。
- ・ 医師は同じ女性ということもあり、話しやすく、十分に話をきいてもらうことが出来た。ただ、担当助産師の説明が非常に詳しいので、聞くことがないくらいであった。
- ・ 医師と話をしたのは5分程度。ほとんどの疑問を助産師が解決してくれたので、医師に尋ねる程のことがなかった。
- ・ 医師や助産師には、自分の話を十分にきいてもらえた。
- ・ 検査については十分な説明を受けることが出来た。
- ・ 妊娠の経過、治療や検査については、十分な説明を受けた。
- ・ 経過が順調だったので、本来病院に行く時も、頻度を多くして訪問健診を受けた。
- ・ 病院での健診は、時間が遅れがちのため、次の人の順番が気になり、あまり細かい話ができない。

### ○通院健診でのトラブル、課題等

- ・ ID カードを忘れた時、別の医師の部屋に通されたことがあった。
- ・ 会計手続きで1時間くらい待ったことがあった。通常、日赤医療センターの支払は機械で行うが、訪問健診の料金は窓口で支払わなければならない。
- ・ 支払手続きについて、自動支払機が使用できず、受付で支払をしなければならぬため、予想以上に時間がかかった。
- ・ 事務員に愛想がなく、自営業に携わっている自分から見ると、笑顔が足りないと思った。
- ・ 予約の電話を 15:00 から 16:00 の間にしかかけることが出来ず、集中してしまうのでつながりにくい。

### ○病院の設備等

- ・ 病院の設備は狭く、トイレの数が少ない。特に担当助産師と話をする場所が1つしかなく、また、そのスペースもカーテンで仕切られているだけのものとなっている。そのため、隣の人の話が耳に入り、落ち着かない。
- ・ 病院の設備がもう少しきれいだとよい。

### 【初産婦】

### ○待ち時間

- ・ 早朝を除いては1時間待ちの状況。
- ・ 待ち時間は、初診時は2時間程度と長かったが、その後は空いている時間に予約を入れたので、長くて20分程度。
- ・ 待ち時間の間は、担当助産師がついていてくれた。計測などを先にしていたので、それほど長く感じなかった。

### ○担当医師との関係

- ・ 担当の医師は必要なことを要領よく述べるという対応。その分、詳しいことは担当助産師から話を聞いた。
- ・ 医師には、質問したことにはきちんと答えてもらった。担当助産師とは話がしやすかった。

- ・担当助産師が来てくれたので、話がしやすかった。担当助産師に相談した内容は、医師にも伝わっていた。

○その他、医療職以外の病院の対応等

- ・事務職員は冷たい印象。

### (3) 出産から入院時

#### ①モデルⅠ

##### 1) 分娩時

分娩時には、配偶者や子ども等が立ち会い、また開業助産師と日赤医療センター助産師の両方が介助、立ち会いを行っており、既にお互いに知り合っている人の中で産むことができたという意見があった。また、モデルⅠの対象者の場合には、出産のスタイルや医療の介入についても独自の考えがあり、病院の方針が受け入れにくいということも懸念されていたが、多くの対象者が開業助産師のかかわりで、必要性を理解することにより、すんなりと分娩台を使用し、また医療処置についてもほとんど抵抗なく受け入れていた。

#### 【経産婦】

##### ○立ち会い者

- ・出産には、開業助産師、夫、上の子が立ち会った。担当医師は出産が終わった頃、分娩室に来てくれた。
- ・出産には、夫、上の子3人全員が立ち会った。上の子（長女）は普段とは違う様子で、おろおろして耳をふさいでいた。
- ・通常、病院では認められないことだが、特別に上の子（長女、長男）にへその緒を切らせてもらった。今回は最後の出産のため、ぜひ子ども達に切らせたかった。
- ・開業助産師と日赤医療センター助産師で介助をしてくれた。

##### ○分娩台使用の有無

- ・出産前は分娩台に乗らない、畳の上の出産も可能とのことだったが、子どもが大きかったので、途中で開業助産師に分娩台に乗るように言われ、指示に従った。分娩台のスペースはそれほど狭いものではなく、また、横向きになることも認め

られていたので、それほど苦痛は感じなかった。

- ・バースプランでは、分娩台の上で出産したくない、帝王切開・会陰切開は何かあってもしてほしくない、産後早く退院したいということを希望した。結局、実際には分娩台を使用した。出産前に日赤医療センター助産師から連絡があり、分娩台を見せてもらったところ、乗ってもよいと思えるものだったのでスムーズに対応できた。

#### ○処置内容

- ・途中で会陰が切れてしまったが、（縫合するのではなく）クリップで止めるという助産所のような処置をしてもらったのはよかった。

#### ○出産の達成感

- ・出産の達成感について、当時の自分としては10点満点中10点。ただし、今になってみると、本当に自分の力で産むためにはもう少し体重管理などの努力が必要であったと思う。
- ・出産の達成感について、10点満点で表すと10点。イメージ通りの出産をすることが出来た。

#### ○子どもとのかかわり

- ・1人目の出産は、訳の分からないうちに筋弛緩剤を投与され、「産ませて頂いた」という感想であるのに比較して、今回の出産は、大変ではあったものの、「自分で産むことが出来た」という実感があり、だいたい思ったとおりの出産が出来たと考えている。2人目ということもあるが、（上の子と比較して）子どもの考えていることがよく分かり、そのため、子どもも必要もなく泣いていないことがない。これは、出産直後に母児が一緒にいたかどうか（カンガルーケアも含め）の違いによるものと考えている。

#### ○病院という空間

- ・病院での出産は、全てが自宅出産とは異なる。病院は、全てが落ち着かない。出産に使用するもの全てが自分のものではないため、不安が増大した。
- ・病院の設備・環境からは、冷たい印象を受ける。分娩室はそれほど冷たい雰囲気ではないが、一歩外に出れば器具がたくさん置いてあったり、医師が歩いていたりするのでこわい。

- ・ 病院での出産は不安が多かったが、日赤医療センター助産師が、ひとつひとつ意思を確認しながら進めてくれたので、だいぶ不安が軽減された。

### 【初産婦】

#### ○立ち会い者

- ・ 出産には、夫と日赤医療センターの師長が立ち会った。A助産師は出産の2～3分後に到着したので、立ち会ってもらうことは出来なかった。
- ・ 出産には、夫、B助産師、日赤医療センターの担当助産師が最初から立ち会った。もう一名の担当助産師は、最後の方になって現れた。産後の写真撮影は、3名の助産師と一緒にすることが出来た。
- ・ 出産時は、夫、母、A助産師、日赤医療センターの担当助産師2名が立ち会った。
- ・ 出産には、A助産師、日赤医療センターの師長、担当助産師、夫が立ち会った。出産する時になって、当直の医師が現れた。
- ・ B助産師と日赤医療センターの担当助産師が立ち会った。日赤医療センターの担当の助産師は、深夜2時か3時ころに来て、腰をさすってくれた。
- ・ 出産には、夫が立ち会った。担当医師は、途中様子を見にきてくれたが、手術中のため、他の医師が担当した。
- ・ B助産師にレメディーをどんどん飲ませてもらい、分娩時の体のつらさを解消した。妊娠の経過中は、自分でホメオパシーの知識を活用して、対応していた。

#### ○分娩台使用の有無

- ・ バースプランでは、分娩台を使用しない、和室の畳の上での出産を希望した。
- ・ バースプランでは、たたみでの出産を希望していたが、結局分娩台を使用した。分娩台には、すがりつければいいところがあるので、事前に考えていたものより、使い勝手がよかった。日赤医療センターの分娩台は足を固定される形ではなかったが、同じ分娩台であっても、足が固定されているか否かで、出産の快適性は大きく異なる。
- ・ 出産は当初、畳がよいと思っていたが、点滴のルートもあり、分娩台の上で行った。クッションがあり柔らかくて良かった。
- ・ バースプランでは、フリースタイルでの出産を希望していたが、実際には分娩台を使った出産でもよかった。ただし、後半は自由な姿勢をとることが出来ず、仰

向けになってしまったのは残念だった。

- ・ B助産師からは、出産は分娩台の上でなくてもよいが、処置は分娩台で行う必要があり、後から上がるのはつらいので、早めの方がよいと言われ、最初から分娩台を使用した。
- ・ ほぼバースプラン通りの出産だった。しかし、分娩時に子宮筋腫が破れてしまい、出血は多く（980cc）、収縮剤と鉄剤は使用した。

#### ○処置内容

- ・ 出産の希望は半分くらいかなえられた。子どもが生まれた時に肺チューブで羊水を出したことや縫合は、バースプランと異なる部分であった。しかし、病院での出産であるために、しなければならないこともあるのだろうと考えている。残念な気持ちもあるが、大まかなところは希望通りであり、また、日赤医療センターのスタッフの間に、希望を取り入れようとする様子が見られたので、満足している。
- ・ 感染症にかかり、発熱したことに対する処置については、納得している。
- ・ 陣痛促進剤を使う等ということは、全く予想しておらず、苦しかった。A助産師と日赤医療センターの助産師はずっと、立ち会ってくれた。40週を過ぎたら、陣痛促進剤を使うのが日赤医療センターの方針だといわれたが、自然に陣痛が起きるのを待ってもらえなかったのは嫌だった。だが、そのままにしておく、胎児に良くないことも起きたかもしれないと、納得はしている。
- ・ 自分は陣痛がない以外は健康なのに、出産前に入院しなければならないのが嫌だった。4人部屋だったが、点滴等をしていたり、泣いている人もいて、自分も悲しくなってしまった。
- ・ 最後のところで、「吸引しますがいいですか。」と言われて、会陰切開、吸引を行った。当初、医療処置を希望していなかったが、無事に産まれたのでよかった。
- ・ 病院での出産を経験して、ぎりぎりのタイミングまで医療処置は行わず、助産師の介助を受けるだけでよいのではないかと思った。今回の医療処置は必要なものだったと納得してはいるが、一方で、もう少し頑張ることが出来たのではないかと考えている。

#### ○出産の達成感

- ・ 「自分で出産した」という達成感について、10点満点で表すと10点。無事計画

どおりに出産できた。ただし、出産時は、想像していた以上に余裕のない状況で（脱水機で絞られているような感じ）、事前に計画していたメニューをこなすことはあまり出来なかった。

- ・陣痛促進剤を用いたこと以外は、完璧だった。無事に「出してもらった」という印象。自分はひたすら痛みを耐えていた。スタッフには200点満点をあげたい。
- ・達成感を10点満点で評価すると、8.5点。マイナス分は、分娩監視装置を装着していると、十分にいきめなかった分。
- ・吸引以外はイメージどおりの出産をすることが出来た。達成感を10点満点で表すと、7.5点。マイナスされた分は、自由な姿勢がとれなかったことである。

#### ○その他

- ・産む際の姿勢や薬、分娩台のことは、自分で本を読みあさって勉強した。

## 2) 入院

入院期間については、モデルIでは1～2日の入院で、以降は開業助産師のケアを受けたり、自宅に帰ることを想定していた。しかし、実際には、自宅分娩の経験がある1名の対象者を除き、多くが4～9日の入院期間となっている。

特に当初は、経産婦の方が、早期退院のニーズが高いと予想していたものの、「入院している時くらいしか休めない」等の理由で、長めに入院する傾向が見られた。また、初産婦の場合には、入院中に母乳ケアの方法等を助産師から学ぶことのメリットが強調されていた。

食事については、母乳育児に取り組みたいという対象者の中では、「母乳に適さない食事」という評価もあった。

	入院日数	出産経験
YSさん	4日	無
CMさん	4日	有
TIさん	2日	有
SYさん	9日	無
NFさん	10日	無
YKさん	6日	無
TFさん	7日	無

## 【経産婦】

### ○褥棟でのケア

- ・褥棟では、乳房ケアが充実していた。日赤医療センターの助産師は、子どもがうまく母乳を吸えるようになるまで付き合ってくれた。
- ・母乳育児を行いたいのであれば、大変であっても、入院中にケアの仕方を教わってリズムをつくった方がよい。最初に育児のペースをつかめば、なぜ子どもが泣いているかも分かり、育児はそれほど大変ではない。

### ○開業助産師とのかかわり

- ・入院中、1人目の時と同様、母乳が出過ぎて困っていた。日赤医療センターの助産師に「産後3日目までは母乳をしぼらない」と言われたが、判断に迷ったので、病院からB助産師に電話をかけてアドバイスを求めた。やはり、日赤医療センターの助産師より、B助産師の方が話しやすい面がある。

### ○その他

- ・入院期間が短いので、子どもの健診だけはきちんと受けるように言われた。子どもの健診と母親（自分）の検査に問題がなければ、退院してもよいとのことだった。

## 【初産婦】

### ○褥棟でのケア

- ・産後の病室のサービスは良かった。夜中でも授乳ができる点が良かった。
- ・褥棟で、自分はA助産師の担当する妊産婦であると認識されていたためか、オムツの場所や消毒の仕方など、入院中の生活について説明がなくて困った。一方、A助産師が来るのかどうか、毎日尋ねられたので、対応に困った。
- ・褥棟の助産師は、皆やさしく、母乳指導に熱心だった。
- ・出産前は母乳は普通に出るものだと思っていたが、実際には非常に大変だった。その時、褥棟の助産師に根気よく、24時間体制で指導を受けられたのは良かった。
- ・入院中、24時間体制で誰かがいて、優しくしてくれた。
- ・満月近くになると助産師が忙しく、その日だけケアが行き届かないことがあり、同室の人が困っていた。